

浅井 文規、山口 永、本村 茂久、日永 一徹

発表テーマ

情報モラル教育年間指導計画の作成と活用例

1 研究の経緯

2012年にネイシテクノロジー合同会社協力のもと、座間市の小学校11校、中学校3校、下は小学3年生から上は中学1年生までに情報モラルアンケートを実施した。その結果として、携帯電話の所持率が、小学3年生は32.1%、学年があがることに数値が上昇し中学1年生では69.1%と分かった。また、学校外でのインターネット利用率は小学3年生では51.6%、中学1年生になると83.2%もあるのに対して、家庭でのルールがある子どもは小学3年生で29.9%、中学1年生でも半分以下の46.4%とどの学年でも下まわっていたことから、各家庭で子どものインターネット利用に十分なルールがないまま使っていることが分かった。

このままでは子どものネット上でのトラブルの増加やゲーム、スマートフォンへの依存が心配されることから子どもの情報モラルを高めるために2013年から「情報モラル年間指導計画」を研究し作成してきた。

2 研究の内容

このような現在の子どもたちを取り巻く状況から、小学校の授業の中で情報教育に触れることができるように「情報モラル年間指導計画」を作成した。作成にあたって、情報モラル教育について、先生方が簡単に取り組めることを目指した。そのため、もともとある各教科の年間計画を活かしながら、情報モラルに関連できそうな単元を選定し、学期に1回15分を目安に取り上げられるように計画を立てた。そして、情報機器の扱いが苦手な先生にも使いやすいようにホームページ「お助けNET」内に座間市情報モラル年間指導計画を置き、そこにリンクを貼り、クリックするだけで簡単に動画を見られる工夫をした。さらに年間指導計画には、幅広い情報モラルの領域を「倫理」「安全」「知的財産」の3つに分類し、そのどれに当てはまるのか記述することで、その時間で何を伝えたいかが明確になるようにした。また、発達段階に合わせて目指す児童像を設定し、それぞれにあった情報モラル教育とはどのようなものなのかもわかりやすく示した。低学年では情報モラルの中の「安全」と「倫理」を重視し、規則正しい生活や人を傷つけない言葉選び、約束を守ることなど、基礎的なソーシャルスキルを身につけることができるようにした。中学年では相手に対する意識が生まれてくる時期なので「倫理」を重視しつつ「安全」や「知的財産」にも触れるようにした。また、調べ学習が増えてくるので情報の真偽をきちんと確かめることの大切さも伝えた。高学年では、大人と同じレベルの情報モラルが必要となるので、ネット依存やネットショッピング、著作権について学び、トラブルを回避したり解決したりできる力をつけられるようにした。

年間計画の活用例として、実際に計画に基づいた授業案を作成し、授業を市内の6年生で行うことができた。授業は家庭科の「生活を見直そう」という単元に組み込んで行った。自分の生活を振り返った後で、ゲームの時間が長いことを取り上げ、そこから情報モラル教育の内容に移っていった。この場面ではゲームのし過ぎでネット依存に陥っている様子の動画を見て、感想を言う学習を取り入れた。子どもたちは身近な内容ということもあり、興味を持って取り組むことができた。動画を見た後に自分の意見を発表するだけなので教師側も子どもたちも気軽に取り組むことができた。授業の終盤の15分間で行うことができた。中学校では技術家庭科の情報という単元で扱われているので、情報モラル教育に関する年間計画は各校で立てられている。よって、研究員として

できることは年間計画を作るよりも実態調査を行い、家庭でのルール作りの大切さを訴えかけることができるようなデータを作成することにした。このデータを生かして、ネットの利用の仕方が改善するように、先生方や保護者に投げかけていきたい。

3 成果と課題

成果としては、座間市の子どもたちのゲーム、携帯電話、インターネット等の実態を調べ、目の前の子どもたちに必要な指導を指導計画に盛り込むことができた。また、各学年の教科と単元の内容を踏まえた情報モラル年間指導計画を作成し、指導に必要なものをすべてホームページに載せて使いやすく整備した。

一方で課題は、指導によって子どもたちにどんな意識の変化があったか、どのように行動が変容していったのかなどの内容の検証と、常に指導計画の更新をして子どもたちの実態に合わせる必要性があることである。また広く利用頻度を高める工夫も必要となる。